資料1

第3回会議以降の情勢の変化について

- 第3回会議までの意見
- 令和2年8月　製材工場動態速報

第１回 北海道林業・木材産業新型コロナウイルス対策に関する連絡会議 概要

【開催日時】 令和２年４月22日（水）

【開催方法】 書面

【開催結果】

議案１ 「北海道林業・木材産業 新型コロナウイルス対策に関する連絡会議」の設置について

参加者11名中11名が会議への参画に同意

議案２ 現在の影響について

（主な意見）

- 原木の販売不振、原木受け入れ制限等（９名１３件）
  ⇒主にトドマツに関するもの：５名８件
  ⇒主にカラマツに関するもの：２名２件
- 建築材等の販売不振（３名４件）
- 産業用資材（梱包・パレット・サンギ等）の販売不振（７名１０件）
- 移出原木の停滞（２名３件）

議案３ 今後、予想される影響について

（主な意見）

- 林業事業体の経営の逼迫（５名９件）
- 木材加工工場の経営逼迫（３名４件）
- 木材製品の需要減退（６名１１件）
  ⇒主に建築材等に関するもの：５名８件
  ⇒主に産業用資材に関するもの：１名１件
- 原木価格の低下及び流通の変化（４名４件）

議案４ これまでに講じた、あるいは今後、講じることとしている対策について

（主な意見）

- 原料や仕向け先の転換など需要動向に合わせた生産体制等のシフト（３名６件）
- 減産等の生産調整及び雇用調整金の申請など（３名３件）
- 国等の関係機関への要望活動等（２名４件）
- 関係者の状況把握及び、その内容を踏まえた対応策の検討（２名３件）
- 原木価格の見直し（２名２件）

議案５ 今後、必要となる対応について

（主な意見）

- 国有林、道有林における搬出期限の延長や出材量の調整など（６名７件）
- 休業補償、代替事業の創出などの雇用対策（４名５件）
- 材の出材を伴わない事業の推進や原料材比率の高い山林の伐採など、需要動向に応じた森林整備事業の推進（４名５件）
- 原木・製品の保管場所拡張や在庫の掛かり増し経費などに対する支援（３名３件）
- 流通経費や原木価格維持補填、製品輸送運賃補助など流通の下支え（３名３件）
- 返済期間の猶予、融資枠の追加、相談体制の確立など金融対策の充実（２名４件）
- 各地の生産計画や需要動向、補助事業などに関する情報のとりまとめ及び発信（２名２件）

第２回 北海道林業・木材産業新型コロナウイルス対策に関する連絡会議 概要

【開催日時】 令和２年５月22日（金）
【開催方法】 オンライン会議
【出席者】 11団体・企業
【開催結果】

議案１ 第１回会議における意見について

【直近の情勢の変化】

（主な意見）

・ 一部、製材工場が金曜日の稼働を止めており、週休３日が現実味を帯びている。
・ 本州の安いスギ製品が梱包・パレットに食い込んで来ており、道内製品は価格下落のおそれ。
・ 建築材はこれまで比較的影響が小さかったが、住宅契約の減少などで減少率が拡大。
・ コロナやオリンピック延期などの影響で紙の減産に伴い、チップの集荷量が相当落ちる見込み。
・ 事業者の手持ち資金の不足が近々に想定されている。

議案２ 今後の対応の方向性について

【今後の影響に対する見通し】

（主な意見）

・ 世界的にコロナウイルスが収束しないと経済全体が回らない。下げ止まる着地点が見えない状況。
・ 収束後も経済活動が抑えられ、カラマツ需要が２割程度落ちて常態化することを危惧。
・ トドマツの売り上げが２割落ちると予想。状況によっては、もっと厳しくなる。
・ 住宅は、８月以降、さらに深刻な状況が見込まれている。
・ 今は製品が溢れているが、輸入材の動向次第では逆に足りなくなることも想定される。
・ ホームセンター向けのDIY材が足りないが、道内の工場で対応し切れていない。
・ 年度末の原木のだぶつきは10万m^3では済まないことが考えられる。
・ 今は、利益より企業の存続を優先させる必要がある。

（まとめ）

・ 製材工場等における原木消費量の減少幅の見通しを約３割として、今後の検討を行う。

【対応方向の検討】

（主な意見）

＜金融対策＞
・ 体力の無い事業者が活用できる、融通の利く資金対応が必要。
・ 林業･木材産業が中小企業経営力強化ファンド（２次補正）の対象となるような働きかけが必要。
・ 税負担が大きい木材産業に対する手当てを考えるべき。

＜雇用対策＞
・ 持続化給付金の給付額引き上げ及び要件の緩和を希望する。
・ 高性能林業機械の整備に対する助成の要件緩和など、設備投資のきっかけが必要。

＜森林整備＞
・ 道有林の立木販売における搬出期限の延長を希望する。
・ 森林整備事業は中断せず、継続することが必要。

＜流通対策＞
・ 林業事業者や運送会社が事業を継続できるよう、手厚い助成が必要。
・ 木材の生産量と滞留量を予測し、比較した上で、スケール感を考慮した対応をすることが必要。

＜その他＞
・ 様々な支援策に関する十分な周知を事業者に対して行うことが必要。
・ 回復後も見据えた対策が必要

（まとめ）

・ 対応方向（案）については概ね了承。
・ 本日出た意見は整理の上、必要な対策を検討するとともに国への要望へ反映していく。

第３回 北海道林業・木材産業新型コロナウイルス対策に関する連絡会議 概要

【開催日時】 令和２年８月４日（火）
【開催方法】 オンライン会議
【出席者】 11 団体・企業
【開催結果】

議案１ 現在の影響及び今後の見通しについて

【直近の情勢の変化】

（主な意見）

- 流通サイドが在庫を減らしており、建築材の需要が落ち込んでいると見られる。
- 梱包・パレット材は既に４割程度落ちているが、９月以降になれば少し動くと予想している。
- サンギは、２割～3 割の減。
- ラミナは完全に止まっており、公共向けの大断面集成材向けラミナを除き、戻らないことが懸念される。
- 製紙が大幅減産しており、国内チップの消費量がいずれの樹種も大幅減となる見込み。
- 製紙工場向けのアンケート調査では、既に 1/3 の企業が雇用調整助成金の手続きを検討している。
- 需要が回復しないと、今後、伐採が本格化する時期になっても原木を買うことができない。
- 林業事業体向けのアンケートでは、６割以上が影響を受けていると回答。

【道の試算に関して】

（主な意見）

- 概ね試算と同様の傾向にある。
- 輸入材や道外材の動向にも影響を受ける可能性がある。
- 製材だけでなく、合板等を含めた木材産業全体の影響を考えることも必要。

議案２ 道の対応状況及び今後の方向性について

【対応方向の検討】

（主な意見）

＜需要喚起対策＞

- 道産材の需要喚起に向け、住宅に関してテコ入れが必要。
- 道産材が輸入材に置き換わる動きが多発している。道産材を使ってもらえるような仕組み（木チェン）が必要。
- 即効性がある出口対策が必要。原木が動かないことには今後の森林整備にも影響が出る。
- 道外向けは杉や外材とのバランスの問題がある。道内消費という形での支援が望ましい

＜原木保管＞

- 安定供給には、中間土場に溜めてから送る体制が必要。
- 原木をストックしておかないと、需要が回復した時に対応できない可能性がある。

＜道有林＞

- 原料の確保・素材生産業の事業維持という観点からも道有林の立木販売の入札を行っていただきたい。

＜金融対策＞

- 長期化した時に信用不安に繋がる可能性がある。中小零細企業だけで生き残っていくのは難しいことから、資本注入の検討を要望する。
- 利子補給等が終わった時に有利子負債が増えてくるので、資金繰りに影響が出てくることを懸念。

（まとめ）

- 森林整備を継続的に行い、原料供給を確保していくことが必要。
- 山側の作業を継続しつつ、回復時の供給を確保するため、原木の保管を確実に行うことが必要。
- 製品の出口を確保するため、住宅など需要喚起に取り組んでいくことが必要。
- 需要者のニーズに合わせた品質や供給体制の確保に業界として取り組んでいくことが必要。
- 借入金の増大によって返済が滞る懸念があり、金融対策について要望をすべき。

令和2年8月　製材工場動態速報

【エゾマツ・トドマツ】　（単位：㎥）

	原木消費量	原木在荷量	製材生産量	製材出荷量	うち移出	製材在荷量
渡島	(90.0%) 4,303	(67.2%) 6,245	(90.8%) 2,228	(81.8%) 1,642	(76.0%) 648	(862.3%) 7,157
檜山	(119.3%) 1,304	(92.2%) 3,379	(101.4%) 510	(114.7%) 617	(89.9%) 392	(102.9%) 287
胆振	(88.6%) 7,936	(140.0%) 19,180	(95.1%) 4,376	(98.3%) 4,160	(70.0%) 1,152	(96.8%) 5,620
日高	(58.9%) 1,201	(138.9%) 8,784	(65.9%) 596	(77.0%) 530	(103.3%) 472	(131.6%) 763
後志・石狩・空知	(78.2%) 1,400	(30.3%) 2,077	(81.8%) 658	(85.0%) 648	(67.4%) 159	(75.2%) 1,016
上川・留萌・宗谷	(62.3%) 8,252	(117.7%) 42,711	(52.7%) 3,274	(41.7%) 2,816	(33.6%) 853	(196.6%) 13,078
オホーツク	(86.4%) 12,740	(95.4%) 37,481	(83.2%) 5,972	(83.8%) 5,740	(93.4%) 2,236	(121.6%) 9,089
根室	(104.9%) 364	(68.2%) 2,696	(103.4%) 185	(139.3%) 234	0	(122.7%) 1,388
釧路	(82.7%) 4,560	(180.9%) 13,900	(85.3%) 2,140	(105.4%) 2,550	0	(119.4%) 5,290
十勝	(66.6%) 5,084	(118.8%) 31,612	(70.7%) 2,309	(71.1%) 2,281	(59.3%) 1,082	(135.1%) 5,373
合計	(78.4%) 47,144	(109.4%) 168,065	(77.7%) 22,248	(76.8%) 21,218	(67.3%) 6,994	(150.9%) 49,061

※　括弧内は前年同月比

【カラマツ】　（単位：㎥）

	原木消費量	原木在荷量	製材生産量	製材出荷量	うち移出	製材在荷量
渡島・檜山	(88.4%) 220	(89.1%) 4,730	(83.2%) 94	(89.5%) 111	(64.0%) 48	(42.3%) 47
胆振・日高	(70.7%) 4,383	(116.7%) 31,273	(69.7%) 1,905	(63.2%) 1,798	(65.0%) 1,018	(112.4%) 958
後志・石狩・空知	(84.3%) 1,402	(66.1%) 3,587	(95.9%) 685	(114.7%) 928	(74.0%) 339	(39.6%) 201
上川・留萌・宗谷	(61.5%) 6,368	(105.0%) 29,921	(69.4%) 3,559	(60.7%) 3,204	(50.5%) 2,223	(295.1%) 1,909
オホーツク	(51.7%) 11,021	(134.3%) 83,616	(52.5%) 5,247	(53.9%) 5,389	(56.6%) 4,742	(72.7%) 2,341
根室・釧路	(68.8%) 3,417	(128.7%) 32,054	(66.5%) 1,481	(62.7%) 1,416	(58.3%) 941	(175.0%) 957
十勝	(76.9%) 20,898	(152.8%) 72,840	(74.3%) 9,220	(80.2%) 9,409	(86.5%) 8,292	(73.6%) 4,176
合計	(66.4%) 47,709	(128.4%) 258,021	(66.6%) 22,191	(67.3%) 22,255	(67.5%) 17,603	(91.6%) 10,589

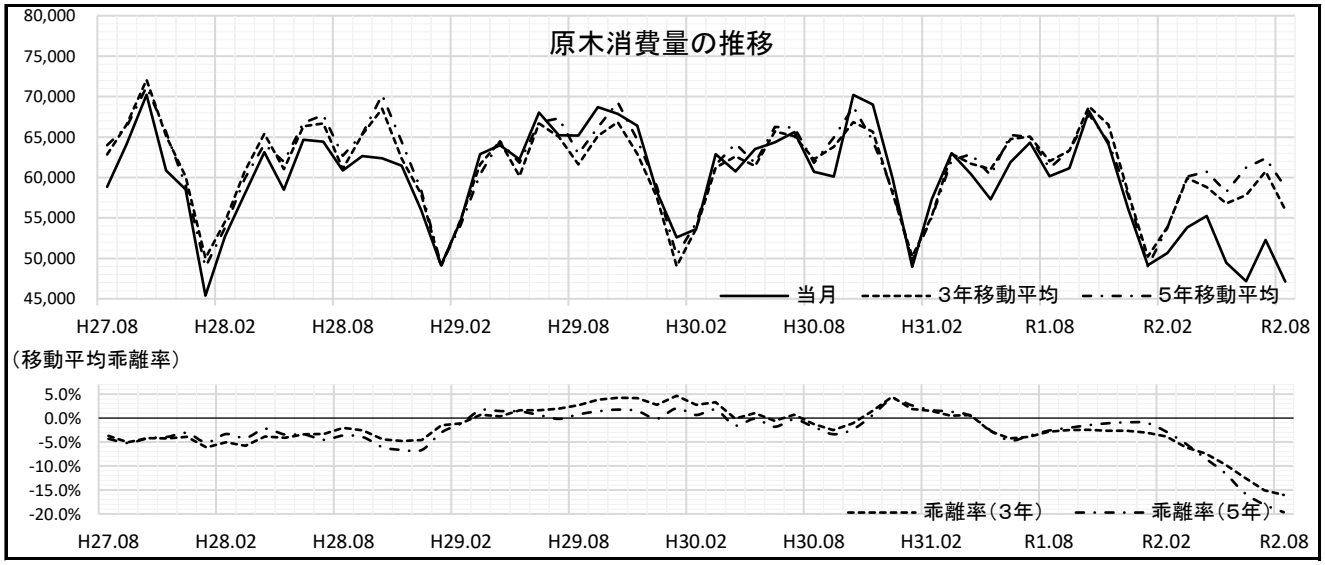
※　括弧内は前年同月比

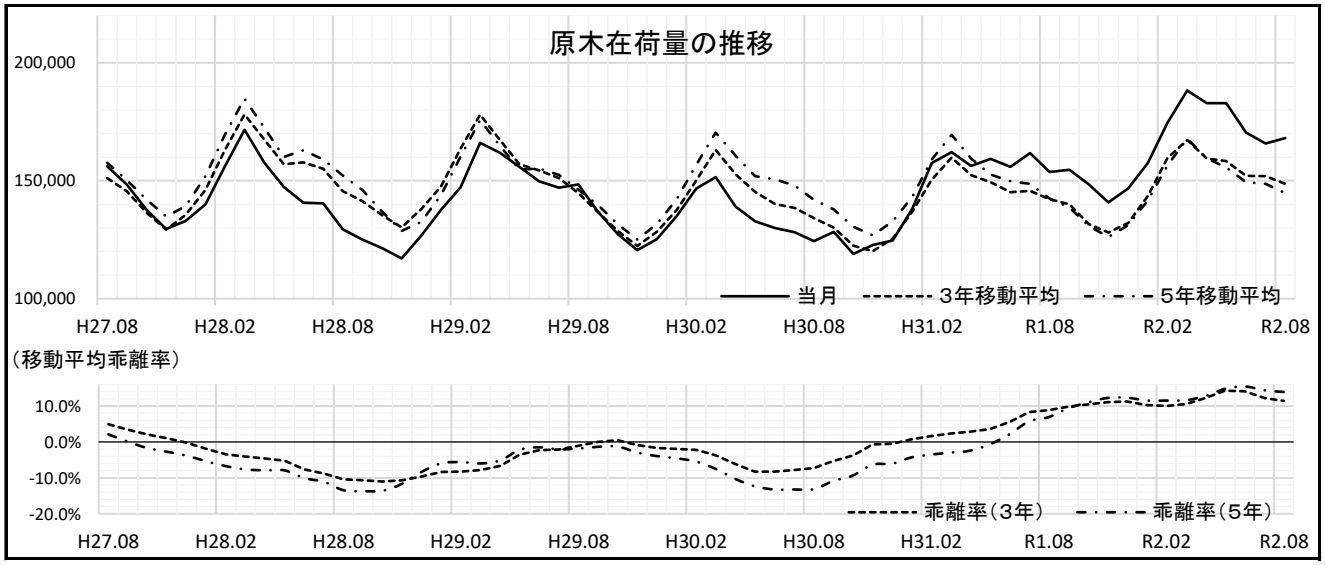
【広葉樹】　（単位：㎥）

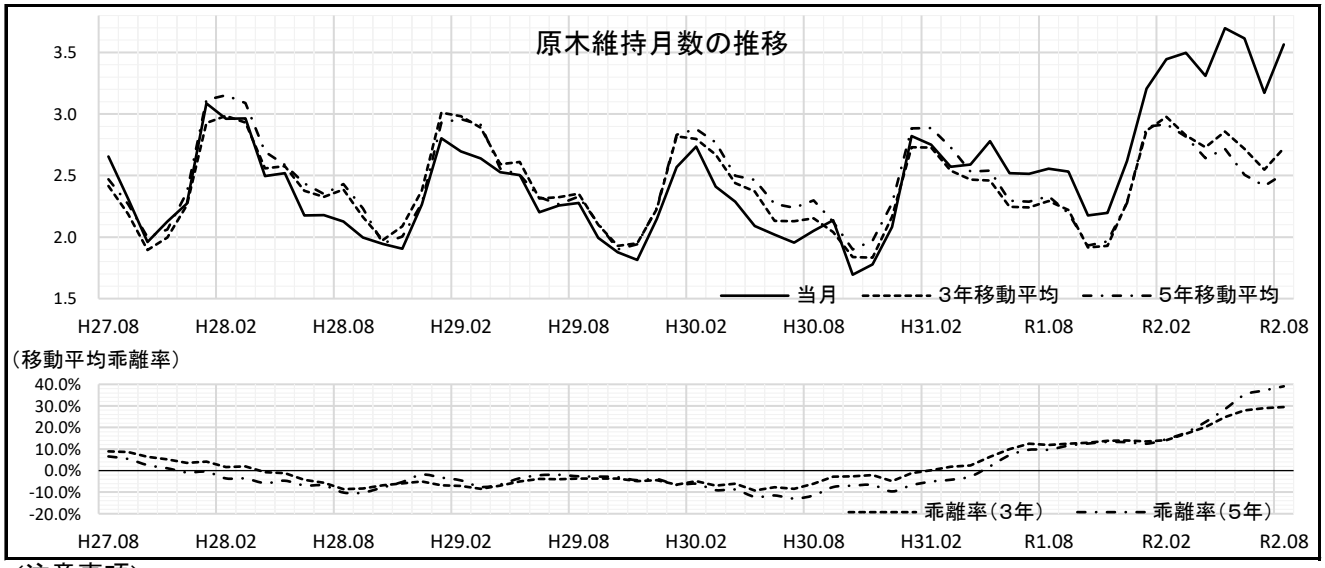
	原木消費量	原木在荷量	製材生産量	製材出荷量	うち移出	製材在荷量
渡島・檜山	(169.2%) 313	(157.0%) 1,787	(193.8%) 155	(193.8%) 155	0	(43.5%) 10
後志・胆振・日高・石狩・空知	(134.5%) 374	(110.1%) 1,153	(128.1%) 164	(93.9%) 155	(31.3%) 10	(100.8%) 628
上川・留萌・宗谷	(65.9%) 2,415	(111.4%) 15,526	(78.3%) 1,267	(87.4%) 1,545	(33.5%) 61	(82.9%) 9,082
オホーツク・根室・釧路・十勝	(92.2%) 920	(85.5%) 5,583	(112.9%) 482	(25.3%) 195	(84.7%) 100	(245.1%) 2,208
合計	(78.4%) 4,022	(106.2%) 24,049	(91.8%) 2,068	(73.6%) 2,050	(51.5%) 171	(95.4%) 11,928

※　括弧内は前年同月比

製材工場の動向（エゾマツ・トドマツ）【平成27年8月～令和2年8月】



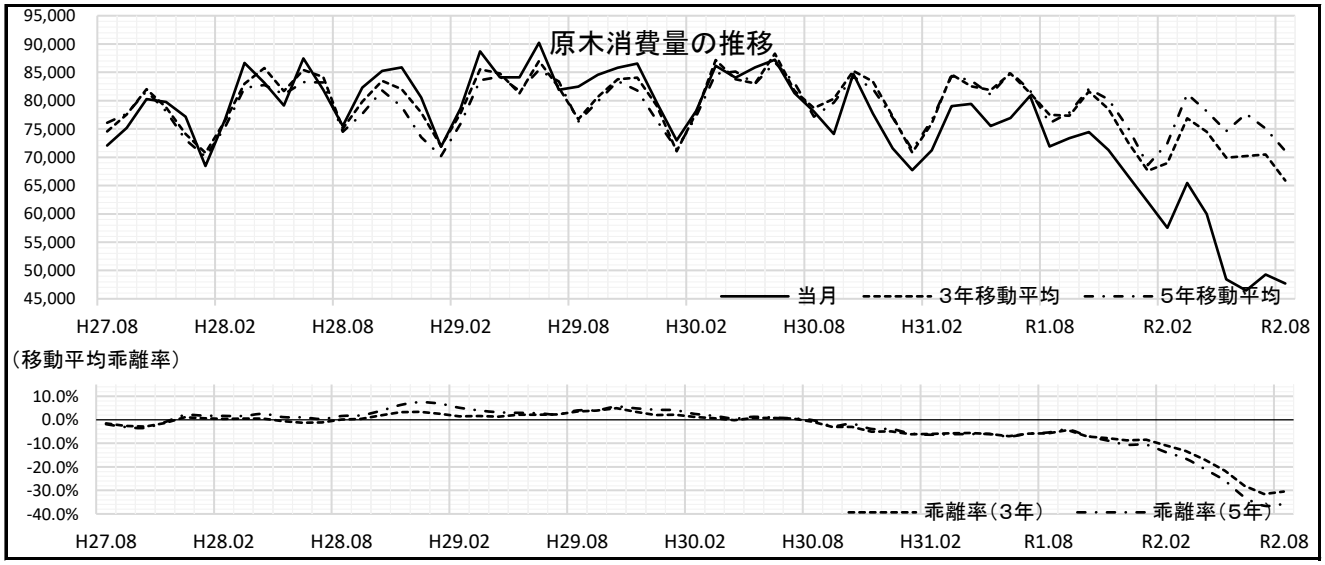


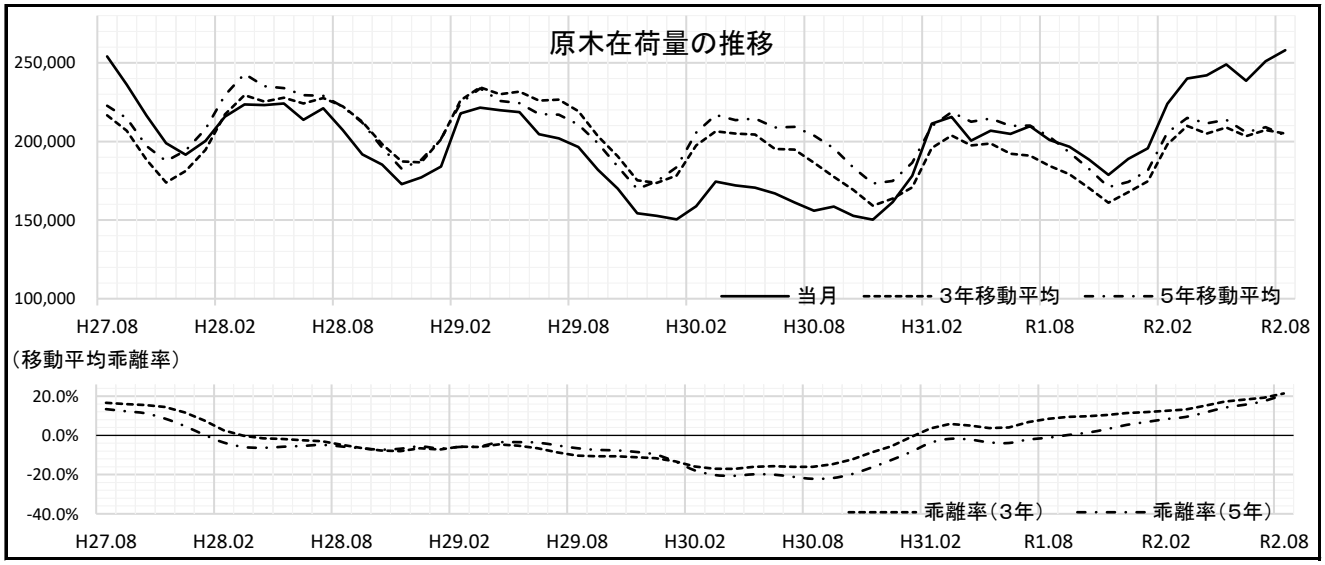


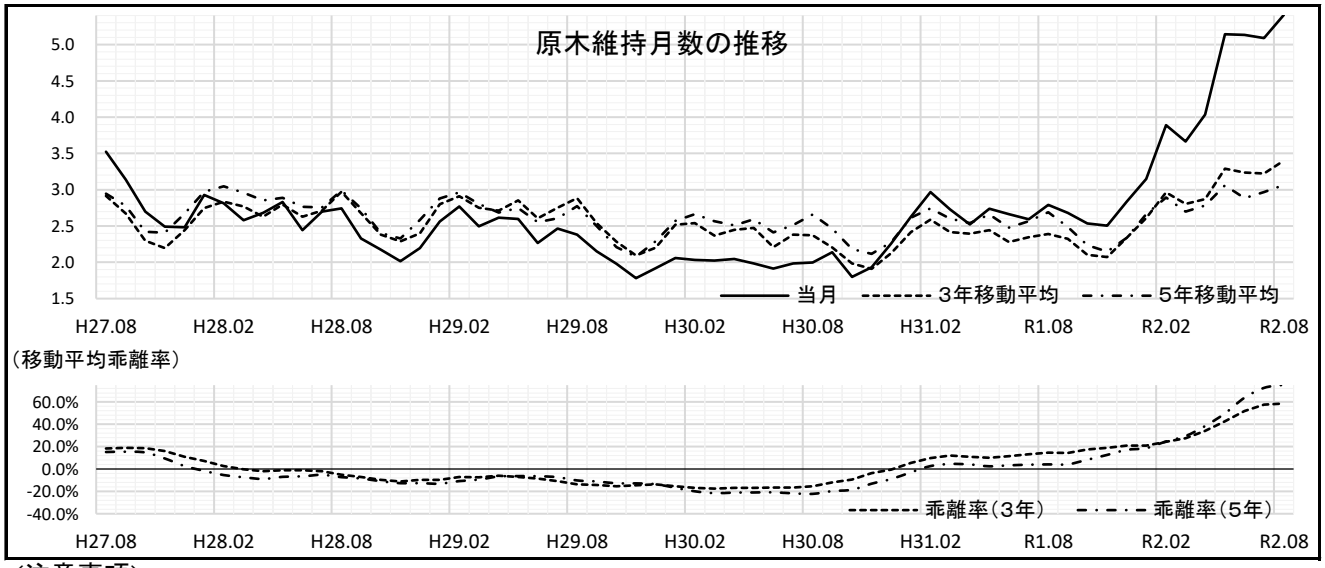
<注意事項>

・「3年移動平均」は当月値を含む過去3カ年の同じ月の平均値を表す。
・「5年移動平均」は当月値を含む過去5カ年の同じ月の平均値を表す。
・「乖離率（3年）」は3年移動平均に対する当月値の乖離率を表す（（「当月」÷「3年移動平均」－1）×100）。
・「乖離率（5年）」は5年移動平均に対する当月値の乖離率を表す（（「当月」÷「5年移動平均」－1）×100）。
・令和2年6月から令和2年8月までの値は速報値。

製材工場の動向（カラマツ）【平成27年8月～令和2年8月】







<注意事項>

・「3年移動平均」は当月値を含む過去3カ年の同じ月の平均値を表す。
・「5年移動平均」は当月値を含む過去5カ年の同じ月の平均値を表す。
・「乖離率（3年）」は3年移動平均に対する当月値の乖離率を表す（（「当月」÷「3年移動平均」－1）×100）。
・「乖離率（5年）」は5年移動平均に対する当月値の乖離率を表す（（「当月」÷「5年移動平均」－1）×100）。
・令和2年6月から令和2年8月までの値は速報値。

新設住宅着工戸数（国土交通省「住宅着工統計」）

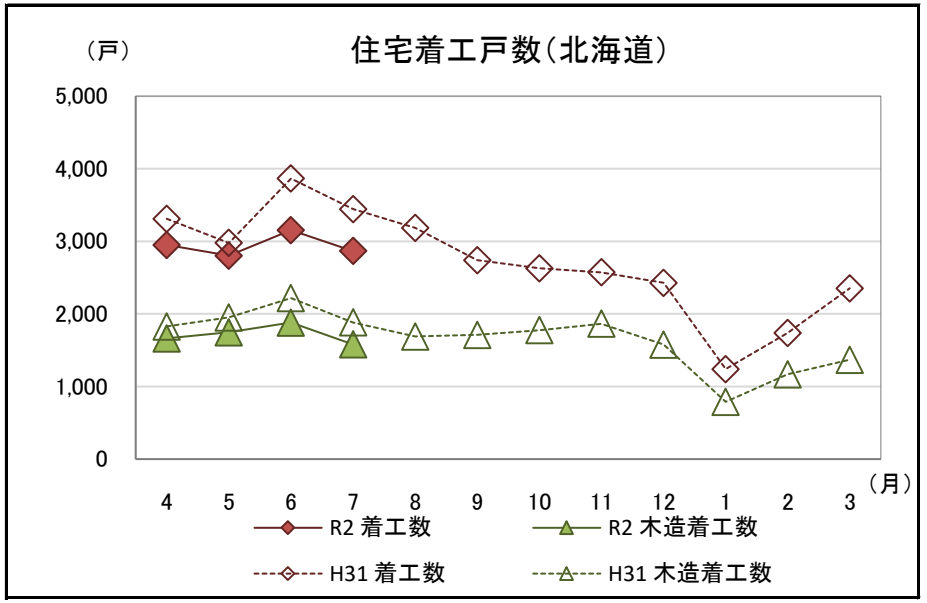
・新設住宅着工戸数の前年同月比は、木造で83．9%、非木造で82．6%、全戸数で83．3%だった。

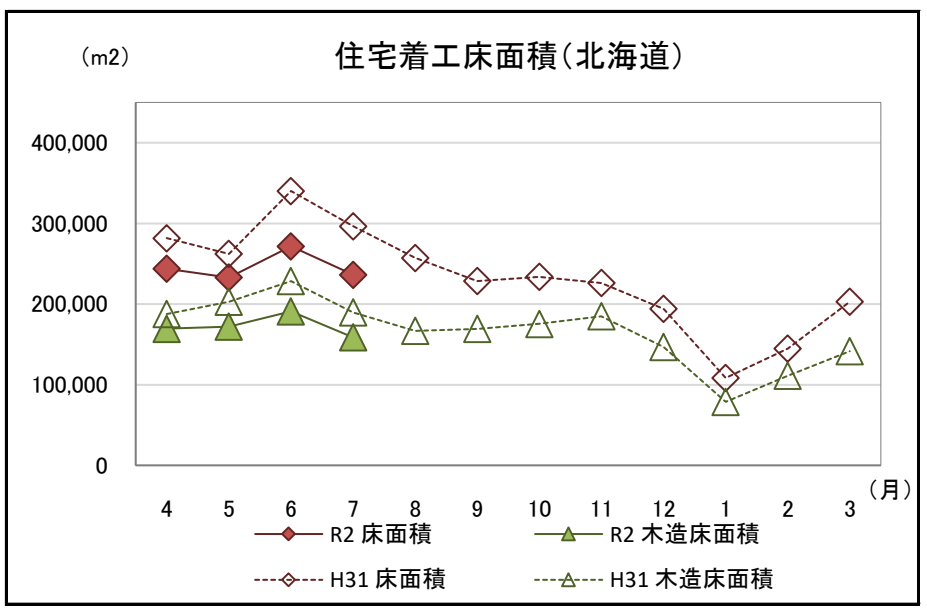
【北海道】　（単位：戸、千m2、%）

区分		合計					木造					非木造
		計	持家	貸家	給与住宅	分譲住宅	計	持家	貸家	給与住宅	分譲住宅	
R2.7	戸数	2,868	980	1,489	8	391	1,580	931	433	8	208	1,288
	床面積	236	121	77	1	38	159	114	21	1	23	78
R2.4	戸数	11,776	4,064	6,116	112	1,484	6,870	3,863	2,088	107	812	4,906
からの累計	床面積	984	502	332	6	144	691	475	121	6	89	294
前年	戸数	83.3%	84.6%	91.6%	10.1%	67.3%	83.9%	85.7%	74.1%	100.0%	101.5%	82.6%
同月比	床面積	79.7%	85.6%	84.2%	14.4%	64.2%	83.7%	86.0%	62.5%	73.4%	102.1%	72.7%
前年同月	戸数	86.6%	82.9%	92.3%	56.9%	79.4%	87.2%	83.1%	91.1%	88.4%	98.9%	85.8%
累計比	床面積	83.4%	82.6%	89.9%	48.7%	75.8%	85.4%	82.7%	88.4%	73.9%	99.4%	78.9%

（参考：全国）　（単位：戸、千m2、%）

区分		合計					木造					非木造
		計	持家	貸家	給与住宅	分譲住宅	計	持家	貸家	給与住宅	分譲住宅	
R2.7	戸数	70,244	22,708	27,696	481	19,359	40,450	19,846	9,802	143	10,659	29,794
	床面積	5,616	2,694	1,253	28	1,642	3,857	2,328	428	11	1,089	1,760
R2.4	戸数	274,752	87,073	103,782	2,035	81,862	156,151	75,901	36,111	581	43,558	118,601
からの累計	床面積	22,431	10,365	4,771	127	7,168	15,073	8,931	1,624	46	4,472	7,358
前年	戸数	88.7%	86.4%	91.2%	77.0%	88.2%	87.3%	88.0%	91.8%	102.1%	82.2%	90.6%
同月比	床面積	84.4%	85.6%	84.5%	71.1%	82.6%	85.6%	87.3%	84.9%	91.2%	82.2%	81.9%
前年同月	戸数	87.9%	83.0%	88.9%	76.4%	92.6%	85.9%	83.0%	90.5%	95.1%	87.3%	90.6%
累計比	床面積	85.7%	82.2%	85.4%	78.1%	91.8%	84.3%	82.3%	86.8%	91.0%	87.4%	88.9%





国土交通省「住宅着工統計」より